



ニッポンの事業競争力を強くする！ 事業継続等の新たなマネジメントシステム規格とその活用等による事業競争力強化モデル事業

事業概要

各グループ概要

取組紹介

イベント

事務局通信

メディア掲載

report: 清水建設株式会社

PDCAを短期間で回し、認証取得の在り方を問う



グループ担当
 シニアコンサルタント
 内海 良

こんにちは。運営事務局の内海です。

今回は、京橋地域(京橋スマートコミュニティ協議会。グループ名は清水建設株式会社)の取組を紹介したい
 と思います。この協議会は、東京の京橋地域に籍を置く企業を中心とした組織であり、創立元年となる今年度は、清水建設
 様、東京都市サービス様、シミズ・ビルライフケア様の3社が協議会員としてこの地区の競争力強化に取り組んでいきます。

創立元年という言葉に驚かれた方もいらっしゃるかと思います。このグループの取組は協議会そのものから立上げるというかな
 りチャレンジングなものです。それに加え、本題である事業競争力強化に向けて、28グループで唯一、
 ISO22301(BCMS)、ISO50001(EnMS)の両方の認証取得を目指しています。具体的な取組テーマは「段階的な地域連携に
 よるエネルギー高効率化並びに事業継続性強化計画」。認証取得の先には、当然、真に防災に強い街づくりやエネルギー効率の
 良いスマートシティの構築を見ずえ、世界の先進モデルとなるべく活動していく取組です。

こちらのグループについては私が全面的にコンサルティング支援している取組でもあり、支援の過程で気づいた特徴など紹介し
 ていきましょう。

まずグループとしての取組ということで、やはり適用範囲の考え方が特徴のひとつと言えます。京橋地域の協議会としてどのよ
 うな事業・業務を行うかということ立ち上げ時から議論するとともに、BCMSの観点で有事の際にどの事業・業務を継続する
 かを検討しました。

具体的には誰のためにBCMSを行うのか明確にするため、利害関係者の整理から開始しました。移動市民、地域住民、入居企
 業、協議会員...。様々な利害関係者を抽出し、その上で競争力強化につなげるためには、移動市民、地域住民に役立つよう
 な業務を行うべきという結論に至りました。対象事業は、移動市民および地域住民に対する有事の際の緊急支援であり、熱・生活
 用水の提供や情報提供など。ひとことで言えば「地域の初動対応を支援する業務が、協議会の事業継続対象業務である」となりま
 す。その他にもいろいろと特徴がありますが、あとはその取り組む姿勢の一言につきるでしょう。

どのようなことをすれば協議会の意義が高まるのか。そんな議論をしていたのはつい数か月前の話ですが、BCMSについては
 9月中旬にはISO22301認証取得の一次審査を受ける予定です。これだけのスピード感で臨んでいるのは、当事業年度で
 回すPDCAを1回と限定していないからです。ひととおりPDCAを回して認証審査を受けますが、審査を受けて終わりではなく、当事
 業では、審査を受けた後の活動まで視野に入れています。審査を受けた後は2回目のPDCAを回すこと、そして競争力強化に向け
 たまちづくり等の計画を策定していきます。この志と姿勢、スピード感には本当に感心させられます。

中間報告会では、この短期間でここまでできる、という発表をしていただけるのではと思います。今から楽しみでなりません。

